

短期研修報告書

記入 | 2017年9月

留学先大学 (国名)	モナシュ大学 (オーストラリア)
短期研修のプログラム名	Global Professional Program
留学した期間	8/8-9/10

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

応募のきっかけは教養教育院から総長奨励の短期海外研修の推薦候補者に選ばれたことです。英語を学ぶよい機会だと思い応募を決めました。

留学前の準備としてはパスポートの発行、海外旅行保険への加入、渡航先の情報収集、緊急時連絡先の確認などがありました。

語学対策としては英語のニュースを見る、英会話表現を本はインターネットで調べる、などを行いました。あまり十分にはできなかったと思います。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

研修では英語の勉強というよりは英語を使って海外での働き方、マーケティング、プレゼンなどの勉強をするという感じでした。

授業は平日 9 時～12 時、13 時～16 時 (15 分ほどの休憩をはさむ) の 1 日 2 コマで行われ、「グローバル社会での働き方、企業文化、ビジネスの場面でのプレゼンテーションの仕方、リーダーシップ、オーストラリアの歴史・文化、英語でのコミュニケーション、自分自身を振り返ること」といったものを学びました。最も印象深かったのはプレゼンテーションで、もともと人前で話すのがあまり好きでない私にとっては負担が大きかったです。また準備の時間が短いため発表の前日や直前は大変でした。

また教室外での活動として、オーストラリアの企業の訪問、オーストラリア現地の学生との交流がありました。

授業では先生の話聞くだけでなく自分の意見や考えを述べたり、グループで話し合ったり課題をこなしたりすることが多かったため能動的に参加することが求められました。また最初の 2 週間は中国・マカオから来た学生と一緒に授業を受けました。彼らと英語でコミュニケーションをとることに難しさを感じることもありましたが、授業内外の活動を通して仲良くなり、海外に友人を作ることができたのでよかったです。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

私のホームステイ先はホストマザー一人の家庭でした。勉強机、ベッド、クローゼット、ドレッサーが付いた部屋が用意されました。朝食・昼食は家にあるものを使って自分で作り、夕食はホストマザーが作ってくれました。

お金は現金 10 万円とクレジットカードを持っていきましたが足りなくなることはなかったです。オーストラリアは日本に比べて物価が高いため買い物や外食は極力控えるようにしていました。

スリッパ、折り畳み傘は持って行ってよかったです。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

人通りの少ない裏道や暗い夜道を一人で歩くのは避けるようにしていました。また、あまり多く現金を持ち歩かないようにしたり、人前でお金を数えないようにしたりしていました。

5. 留学を終えて感じる事&留学を考えている学生へのメッセージ

私は今回の短期研修によってオーストラリアの多文化社会を実際に経験し、たくさんの発見をすることができました。それは地理・気候だったり言語・文化だったり様々です。このようなことは日本で本やインターネットを通して知るよりも実際に自分で体験する方が遥かに印象に残りますし、自分自身の見識を広めるのに大いに役立つと思います。それだけでなく、現地に行かなければ気づくことのできないものもたくさんあります。

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

有名な観光地であるグレート・オーシャン・ロードのツアーに参加しました。美しい海岸沿いの景色を楽しめるのでとてもおすすめです。



短期研修報告書

記入 | 2017年 9月

留学先大学 (国名)	モナッシュ大学 (オーストラリア)
短期研修のプログラム名	GPP
留学した期間	2017/8/9~2017/9/9

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

総長奨励の対象者に選ばれたことでこのプログラムに参加することができた。語学対策として、TOEIC や TOEFL の問題集で勉強していた。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

オーストラリアの歴史や文化、異文化間のコミュニケーションについて、博物館見学やグループワークを通して学んだ。また、自分と他者の両方の視点から自分自身の長所や短所を考え、セルフブランディングを行ったり、現地の企業を多数訪問することで、ビジネスについての知識を深めたりした。授業は平日の朝 9 時から夕方 4 時まで。授業のほとんどはグループワークで行われ、プレゼンテーションの機会もたくさんあった。学生が主体となって授業は進行し、教員はそれをサポートする形で参加していた。学生が発言する機会が多数設けられており、積極的に授業に参加しやすい雰囲気だった。日本の他大学、マカオや中国の学生と自由に意見交換ができ、他校・他国の学生と積極的に交流できた。ただし、自分から参加する意欲がないと周りの話をただ聞いているだけで終わってしまうので、積極性は必須だと思う。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

全員がホームステイ形式で滞在する。ホームステイ先では、自分用の部屋が与えられ、自由に使うことができた。食事については、朝食は自分でトーストもしくはシリアルを食べ、昼食はサンドイッチを弁当として持たせてもらい、夕食は家族でそろって食べた。友達と自由に外食することもできるが、事前にホストファミリーに連絡することが必要。食事の内容は、ホームステイ先のバックグラウンドに左右される。生活リズムを極端に崩さなければ、体調不良になることはない。財布やスマホ、パソコンなどの貴重品はなるべく持ち歩いた方がよい。必要ない場合はスーツケースに入れてロックをかければより安心。洗濯ネットやスリッパを持って行ったのが良かった。また、事前に家の Wi-fi が使えるかどうかをメール等でホームステイ先に確認しておいた方がよい。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

メルボルンはかなり治安が良いのでこれといって危険を感じたことはなかった。ただ、路上にいるホームレスには関わるべきではない。また、住宅地の街灯が少ないので、日が落ちるとかなり暗くなる。

5. 留学を終えて感じる事&留学を考えている学生へのメッセージ

僕にとって今回の留学は初めての海外滞在だったので、出発前は期待と共に不安も大きかった。しかし、実際に参加してみると一緒に参加した名大の仲間やホストファミリー、モナッシュ大学で出会った先生や中国・マカオの学生など多くの人たちのおかげで、研修期間中、常に楽しく過ごすことができた。今まで漠然と英語を勉強してきたが、今回の留学でなぜ英語を学ぶべきなのか、いつ英語が役に立つのかということが明確になり、英語を学ぶことに対するモチベーションも高まった。また、この研修で学んだことは、直接自分の専攻に関連しているわけではないが、自分の専攻とは異なった分野について知ることは僕にとって新鮮だったし、将来のキャリア形成の上でも有益だった。

海外に留学することは、かなり勇気のいることだと思う。日本では当たり前のことが海外では通じないということもしょっちゅうだし、金銭的にも負担は大きい。けれど、その一方で日本に留まっていたでは絶対に得られない多くの経験を味わうことができる。僕自身、観光や食事はもちろんのこと、日本とは全く異なる形式の授業やそこでしか会えない外国の友達など、数えきれないほどの貴重な経験を積むことができた。比較的時間の自由が利く大学生のうちに、勇気を出して海外留学に挑戦してみるべきだと思う。

自由記述欄 * 現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

休日などに中国の学生とシティ観光をしたり、ナイトマーケットに行ったりできたのが特に良い思い出になった。授業以上にお互いのことをよく知ることができるし、英語で日常会話をする練習にもなる。本当に気が合う友達を見つけられると帰国後も連絡を取り合うことができるので、積極的に誘ってみるべきだと思う。

短期研修報告書

記入 | 2017年 9月

留学先大学 (国名)	モナシュ大学 (オーストラリア)
短期研修のプログラム名	GPP(グローバル・プロフェッショナル・プログラム)
留学した期間	8/8~9/10

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

1年生の冬に受けた TOEFL ITP の点数がたまたま良かったらしく、名大の事務から電話がありこのプログラムがあることを知り、すぐに快諾しました。

申し込みの手続きは、基本的にはメールで言われたことをやるだけだったので、スムーズに進めることができました。

語学対策としては、オンライン英会話を5月ごろからやっていました。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

平日は、9時から12時、13時から16時まで授業があります。日本の授業とは違いアクティブに発言しなければならないので、退屈と感ずることはありませんでした。

授業の内容は、主にビジネスを学びました。授業では毎週プレゼンがあり、準備は少し大変でした。また、企業見学に何度も行き、日本とオーストラリアの会社の違いを強く感じることができました。

周りの学生はほぼ中国やマカオからの留学生で、最初は戸惑いもありましたが、とても仲良くなることができました。仲良くなった中国の友達と他大学のオープンキャンパスに行ったりマーケットに行ったりもしました。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

僕のホストファミリーは、元はギリシャ系でずっとオーストラリアに住んでいるということで、思っていたような洋風の家やご飯でした。自分の部屋があったので、しっかりとプライベートも確保されており過ごしやすいです。ご飯も毎日美味しく、とても幸せでした。

支払いなどは、基本的にすべてクレジットカードを使用していました。3万円ほど日本であらかじめ両替して持ってきていましたが、使い時がなく日本に帰ってから両替し直したので、意味がなかったと思います。(手数料でだいぶとられるので損をしました) 財布には、クレジットカードと現金40ドルほど持ち歩き、家のスーツケースの中に予備のクレジットカードと現金、パスポートなどを鍵をかけて保管していました。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

メルボルンはそこまで危ない都市ではないので、危険を感じたことは特にありませんでした。しかし、夜は街灯がないところが多く暗いので、なるべく早く帰るようにしていました。(帰りが12時近くになることも何回かありましたが、)

5. 留学を終えて感じる事&留学を考えている学生へのメッセージ

授業を通じて、自分の強み、弱みを意識するようになりました。その弱みをなるべくなくせるようにこれから頑張っていきたいと思っています。英語力がめちゃくちゃ上がったというわけではないですが、最初の方と比べると会話がスムーズになったと感じたり、映画などでも何を言っているかわかるようになったりして、非常に意味のあるものでした。

また、長期休みに違う国に行ってみたいと思うようになりました。この研修に行って良かったと本当に思えるし、お金はかかりますが行く価値は十二分にあります。

自由記述欄 * 現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

メルボルンはとてもモダンな街で、とても景色がきれいです。授業が終わって少し時間があつたらただ散歩して町並みを満喫していました。

ツアーで行ったグレートオーシャンロードがとても綺麗だったので、少しお金はかかりますが是非行くといいと思います。

短期研修報告書

記入 | 2017年 9月

留学先大学 (国名)	モナシュ大学(オーストラリア)
短期研修のプログラム名	GPP (Global Professionals Program)
留学した期間	2017.8.8~2017.9.10

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

きっかけは、大学から総長奨励による海外短期研修の候補者に選ばれたことです。私は、大学在学中に留学することは特に考えていませんでしたが、せっかく与えられたチャンスを無駄にするのはもったいないと思い、参加を決めました。このプログラムに参加して、その決断は間違っていなかったと感じます。

また、事前に語学対策と呼べるものは特にしていませんでした(大学の教材等を用いて英語を聞く程度でした)。もし、語学対策をするのであれば、日常で使用する語彙の確認をすると良いのではないかと思います。私はあちらに行き、日常で使用する語彙が圧倒的に不足していると感じました。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

基本的には 9 時から 16 時まで土日を除いて毎日授業がありました。授業に関しては午前、午後ともに約 1.5 時間×2 であり、途中で 15 分程度の休憩が入っていました。授業の形態は日本のものとはかなり異なっており、ディスカッションやプレゼンテーションの準備、プレゼンテーションなどがメインでした。プレゼンテーションは少なくとも週に 1 回はあったので、かなりの数を行ったと感じています。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

私のホームステイ先は、ホストマザーがアジア系の方だったので、食事などはアジア系のものがメインでした。また、住環境に関しても申し分ないものでした。ただ、オーストラリアの家では、あまり暖房をつけないようなので、部屋は日本に比べて寒く、乾燥しています。そのため、保湿クリームなどをもっていくとよいのではないかと思います。また、万が一に備え、日本からは常備薬をもっていくことをお勧めします。

そして、次に携帯電話についてですが、個人的には、日本で使用しているものを持っていくことをお勧めします。私は、オーストラリアでも使用できる携帯電話をレンタルして持って行きましたが、オーストラリアでは、ネットワーク環境も充実しているので、日本で使い慣れたものでも十分に対応できます。特に、私が参加した際には、30 秒で自分の長所を紹介するビデオを作る課題があったのですが、その時に使いなれた携帯電話をもっていたらよいと感じました。また、あちらで電話をかけたいのであれば、現地で SIM カードを購入すればよいと思います。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

特に危険を感じることはありませんでしたが、日が暮れると街灯が少ないためにかなり暗い場所もあり、注意は必要だと思います。また、身を守るために貴重品は必ず視界に入るようにしていました。

5. 留学を終えて感じる事&留学を考えている学生へのメッセージ

今回の留学は私にとって非常に良い経験となったと感じています。自分の英語の欠点を知れたのも良いことですし、何より英語でのプレゼンや異文化理解について改めて学ぶことができました。英語能力が格段に向上したとは言いきれませんが、英語を用いたコミュニケーションを行う上で非常に大切になるスキルを学ぶことができたと思います。もし、このプログラムに興味がある方がいれば、参加することをお勧めします。自分の英語力を知るだけでなく、これから英語を学び、使用していく中で何が大切であるかを身をもって体験できると思います。

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

土日は休みであるため、土日に観光をするとよいと思います。大学ではグレートオーシャンロードやフィリップ島へのツアーの斡旋を行っていますし、メルボルンには様々な観光名所があります。出発時間などの関係で私はツアーに参加せず、自分で観光名所へと行って行きました。特に、メルボルン博物館は学生証を提示すれば無料で見学できるのでかなりお勧めです(ただし、特別展に関しては別途料金を払う必要があるかもしれません)。その他にもパフフィンビリーで蒸気機関車に乗ったり、シティで買い物をしたりとメルボルンからそこまで離れていない場所でもかなり観光ができると思います。



↑クレイトンキャンパスの建物



↑美術館(こちら常設展は無料です)

短期研修報告書

記入 | 2017年 9月

留学先大学 (国名)	Monash college (オーストラリア)
短期研修のプログラム名	Global Professionals Program
留学した期間	2017/8/8~2017/9/10

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

TOEFL ITPの結果に基づき総長奨励で短期研修の補助を出していただけるというお話があったので、申し込むことにしました。前々から短期留学に行ってみたいと思っていたので、連絡していただいてすぐ参加することを決断しました。申し込み手続き自体はエージェントさんが仲介してくれたので、簡単にできました。留学前に語学対策をしようとは思っていたのですが、試験勉強等も被り、結局準備は特に何もできないまま出発することになりました。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

3時間のセッションを午前午後1コマずつ、計6時間の授業を週5で行いました。内容は主にビジネスやオーストラリアの文化、コミュニケーションなどですが、多岐にわたります。週1くらいでグループプレゼンテーションの課題があり、その準備や発表、フィードバックを通してプレゼンスキルを磨きました。度々授業内容の振り返り課題が出たので、ライティングの能力も少し向上しました。ほとんどの学生は中国やマカオから来ており、日本人は15名程度でした。時々日本語を学んでいる現地の学生との交流もありました。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

オーストラリアは冬なので寒さが厳しかったです。特に私の家は暖房を全くつけなかったので、夜家に帰ってから寝るまでが非常に寒くてつらかったです。防寒具はしっかりと準備していくべきでした。ただヒートテックはたくさん持って行ったのでかなり役立ちました。食事は3食ホストファミリーが用意してくれます。朝はパンやシリアルをセルフサービスで食べ、昼はサンドイッチやパスタなどをランチとして持たせてくれました。夜は家族全員で集まって食べました。ファミリーは台湾人だったので食事は日本とほとんど変わらず、私の口にすごく合い良かったです。私は陸上競技部に所属しているため、現地でも体力維持のためにほぼ毎日近所のサイクリングコースでジョギングをしていました。ただ平日は授業を受けて家に戻るとかなり遅く、日没までわずかな時間しかなかったので、練習時間を捻出するには少し苦労しました。現金は日本で両替した2万円分しか持っていきませんでした。結果足りましたが、向こうでの買い物はほとんどクレジットカードで済ますようにしたので、必要以上に多額の現金を持ち歩くことはせずに済み、よかったです。クレジットカードは必須でした。持って行ってよかったものは、タコ足配線です。パソコンやスマホは毎日使うので必ず充電する必要があるからです。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

週末にツアーに参加した際、帰りが遅くなり、最寄りの駅に到着したのが夜の 11 時ごろになった時がありました。駅から家まで一人で歩いて帰ったのですが、街灯がほとんどないのでとても怖い思いをしました。真っ暗な道を歩いているときに怪しげな男性 3 人に急に出くわしたのには驚きました。暗くて何も見えなかったうえ気配すら感じなかったので本当に怖かったです。ツアーの日は帰りがかなり遅くなるということを考えておくべきでした。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

たった 1 カ月ではありますが、この短期研修に参加して本当に良かったです。様々な授業や交流、旅行を通して得た経験は何事にも代えがたい素晴らしいものです。私自身海外でこれほど長期間過ごしたのは初めてで最初は不安でしたが、終わってみるとあっという間だったし、行って良かったというのが感想です。少しでも迷っているなら行くべきです。

自由記述欄 * 現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

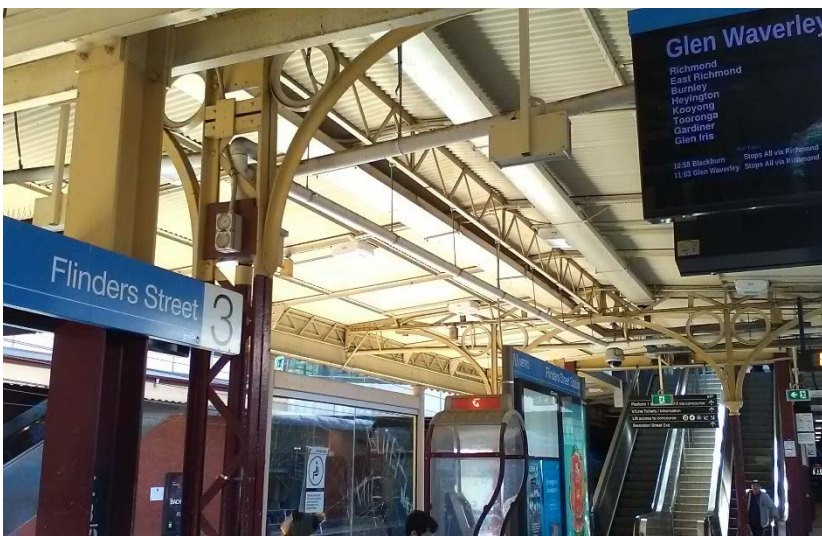
メルボルンは公共交通機関が発達しているので、それを活用していろいろなところに行きました。電車、バス、トラムの 3 種類が町中に張り巡らされています。乗車券はすべて Myki Card と呼ばれる共通の IC カードで、Myki Pass (日本でいう定期券) をそのカードにつければ期間中は乗り放題です。

週末に行った The Great Ocean Road のツアーが楽しかったです。美しい景色を眺めて癒されること請け合いです。海岸の景色だけではなく、途中いくつかのポイントでストップするので、そこで野生のカンガルーやコアラを見ることもできます。

最後の週末には Jetstar を使ってシドニーに行きました。飛行機で 1 時間半とそこまで遠くないので、もしやる気があったら行ってみたいと思います。とてもいい気候で、街並みも美しかったです。見どころもたくさんありました。ただシドニーは Myki ではなく Opal Card という IC 乗車券が別に存在するので、別途購入する必要があります。

メルボルンは物価が高いとよく言いますが、スーパーに関してはその限りではありません。お土産としてお菓子や食べ物を買いたい方はぜひスーパーに行ってみるといいと思います。オーストラリアでは Coles と Woolworths が 2 つの大きなチェーンです。見かけたら一度覗いてみることをお勧めします。

最後に、メルボルンは天気が悪いので折り畳み傘は必須です。





短期研修報告書

記入 | 2017年 9月

留学先大学 (国名)	オーストラリア
短期研修のプログラム名	G P P
留学した期間	8月8日から9月10日

1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

応募のきっかけは1年生の時の1月に行われる TOEFL ITP テストでよい成績を収めたということで、総長奨励の候補生として選んでもらったことです。もともと長期留学を計画しており、去年ノースカロライナ州立大学での3週間の研修に参加したあと10月から TOEFL ibt の目標スコアを取得するための勉強をしていました。それが今回のチャンスにつながったと思います。もともと留学や海外で働くことに強い興味があったので、英語スピーキング能力の向上、働くことへのイメージを持つ、この二つを目標にしてプログラムへの参加を決めさせてもらいました。語学対策については、上記に述べたものに加えて自分で特別ライティングセミナー、NUPACE 合同クラス、G30 クラス聴講などの授業をとり、自ら英語に触れる機会を増やしていました。語学の対策はほどほどでいいという人もいますが、このプログラムに限らず、海外におけるプログラムに参加するなら最低限コミュニケーションが取れるようにしておかなければならないと思います。(特にリスニングはしっかりと対策しておくべき) そのレベルまで達していないと学べることの濃さが全く異なってくると実体験から思います。現地では、TOEFL のテキストからパラフレーズに使えるような単語を拾ってきて、実際に使える単語を増やすことを意識して生活していました。

2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

GPP は、基本的に平日9時から16時まで monash college で授業を受けるという形式でした。クラスの内容については、自分について知るパーソナルブランディングなどの自己分析や、企業訪問を通じた企業文化の分析、日本の製品をオーストラリアに売り込むプレゼンテーションなど多岐の内容をカバーしてくれていたため、非常に勉強になりました。すべて授業は英語で行われます。授業を受けてみて、自分の性格、大切にしているものを自覚することが出来、非常に参考になりました。又、プレゼンテーション発表を何回も行うので、人前で話すことが苦手な人もそれを克服できるようになると思います。企業に関する授業では、日本の企業と海外の企業の働き方には大きな違いがあり、海外のほうがワークライフバランスに重きを置いた形式になっていることが理解でき、休暇等も十分に取れることが分かりました。海外で働くことに強い興味が出てきたので、それを実現するためにこれからも努力していきたいです。クラスは中国の学生、一橋大学、早稲田大学との合同授業で交流は非常に面白かったです。初めは日本人が各クラス2、3人だけという感じだったので、中国の学生が中国語で会話をはじめ、コミュニケーションの輪に入りづらいということもありましたが、めげずに英語でのコミュニケーションにトライし、最終的にはたくさんの友達を作ることが出来たので本当に良かったです。基本的な中国語文法、単語を知っていると話のタネにもなったので中国語選択の人は特に少し中国語の復習をしておくともよいかもしれません。また、

授業とは別に monash university の日本語クラブにも参加し、後半はその学生とほぼ毎日交流していました。英語を話す機会を増やしたい人はみんなとてもやさしいのでぜひ参加したほうが良いと思います。名古屋大学の学生とも土日や平日の授業後に遊びに行ったりして交流を深められたので良かったです。

3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

住環境は何もこまることはありませんでした。食生活はホストファミリーがどのような食事を作ってくれるかによると思いますが、自分の場合は毎日いろんな国の食事を作ってくれたので飽きることなく生活でき、本当に感謝しています。自分の部屋を与えてもらえますと思いますが、部屋に引きこもるのではなく、なるべくチャンスを見つけて会話をするのがとても大切だと思います。実際、ホストファミリーも、前回受け入れた学生がすぐに部屋に行ってしまう、とても寂しかったといっていました。金銭管理については、物価が高いので生活必需品などはスーパーで買うのが一番良いと思います。お土産などもそこで結構そろるのでとても便利です。持参してよかったものは、日本からのお土産とトラベルノート、また、日本や自分の住んでいる町の写真などです。トラベルノートは毎日思ったことや、授業の内容で今後活かそうなところなどいろいろなことを記入出来るのもって行って本当に良かったと思います。また、自分の町や日本の文化について話す練習をしておくとのタネを増やせるので非常に助かりました。Wifi については高いところで借りたのにも関わらず、ホストファミリーの家庭にも無線ランの環境が整っていたこともあって外出時以外は使わなかったため SIM フリーのカードを現地で買えばよかったと非常に後悔しています。しっかりとそこらへんも調べてから現地に行くといいのではないでしょうか。

4. 危機管理（身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど）

身の回りの荷物に気を配ることに気を付けていました。基本的にメルボルンは安全だと思いますが、油断せずにしっかりと危険を察知することは重要だと思います。危険を感じたことは一度もありませんでした。

5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

留学を終えて感じることは、海外は非常に自分の見方、可能性を広げてくれるということです。日本の常識とは異なった環境で勉強することは自分の人生に大きな影響を与えてくれると思います。今回海外研修に参加したのは二回目でしたが、前回以上に自分を成長させることが出来たと確信しています。一番良かったのは、自分自身の考えることを尊重し、行動することが大事だということを見つけたことです。英語についても今までの学習の成果を活かす非常にいい機会になりました。前回の研修の際はなんとかコミュニケーションが出来るレベルのみでとどまっていましたが、今回は自分の意見をしっかりと伝え、円滑なコミュニケーションが出来るレベルまでもっていったので良かったです。留学を考えている人はぜひ挑戦するのがいいと思いますが、語学対策は早めに始めたほうが良いと思うし、海外に行くまでにしっかりとコミュニケーション能力をオンライン英会話、英語の授業などを活かして獲得するのが絶対に良いと考えます。

G P P、オーストラリアで得た経験を活かすためにもこれからもっと国際的なイベントに参加し、よりたくさんつながり、経験を得てから長期留学に臨みたいと思います。また、中国の学生との交流を通じて中国語の重要性を感じたのでそれも頑張りたいと思います。今回こんなに貴重な経験をつませていただき、総長奨励制度、またこのプログラムの運営等に尽力してくださった人々には本当に感謝しております。ありがとうございました！

自由記述欄 * 現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

土日は自由に使えるので monash のキャンパスにあるツアー申込場所などでグレートオーシャンロード、フィリップ島などの観光地に行くと、景色やコアラ、カンガルー、ペンギンなどを見れたので面白かったです。シドニーも飛行機で行けば1時間30分くらいで行けるので1泊2日の旅行をするのもよいと思います。(費用はそれぞれ100ドルくらい、シドニーは飛行機が往復220ドルくらいで、ユースホステルなどに泊まれば40ドルくらいで一泊できる。) オペラハウスは特に素晴らしかったです。

日本でメルボルン、シドニー用のガイドブックを買って持参しておくといよいと思います。

上でも触れましたが、日本語クラブには facebook からコンタクトをとれるので積極的に参加して現地の学生との交流をするのが語学力上達のカギだと思います。

また、中国人のことのやり取りも増えるので、We chat というアプリを事前にダウンロードしておく手軽に連絡先の交換が出来てよかったです。

国際学生証は申し込んでおくと、バー等でアルコールを飲むときなどの年齢確認、また美術館などでの学割の際に使えるので便利でした。

ショッピングは DFO というアウトレットモールが色々な服や靴をお得な価格で扱っているので行くと面白いと思います。

メルボルンでは1日に4季を味わうことが出来るといわれるほど天気の移り変わりが激しいので折り畳み傘は毎日携帯したほうが良いと思います。

何事にも積極的、楽観的な態度で物事に臨むのがいい経験をするためにはとても重要だと思います。